

2018 年度 春の大セミナー

<5th D－ table② 総評>

Judge

矢田部（法市 4） 橋本（明治 4）

Table member

雀部（武蔵 3） 佐藤（フェリス 3） 平野（法市 3） 陸（立教 3） 小林（立教 3）

佐野（立教 3） 杉本（明治 2）

構成

- 1.議論の流れ
- 2.順位選定理由
- 3.コメント

1.議論の流れ

文責:橋本（明治 4）

本章では議論の大まかな流れを追います。我々ジャッジの解釈とテーブルメンバーの解釈にはズレがあるかもしれませんが、その点をご容赦下さい。

<Narrowing から ASQ>

雀部、平野、陸、佐野、佐藤の 5 人が OP に立候補する。立候補者全員がいわゆるモデルオピニオンシート（教師が体罰をしたときの罰を重くすることで、その数を減らし、それを受けて苦しんでいる生徒を救うというもの）であり、かつ最後のテーブルであるからコンパリに時間を割きたいというものだった。各人の差はコンパリアイデアのロジックであり、その理解の後、佐野が OP に選定される。

ASQ では、主にコンパリアイデアに関連する質問がなされ、時折、その議論を ASQ でする必要はあるのかという介入はなされたが、基本的にテーブル全体としてはその質問をすることを容認しており、特に停滞もなくスムーズに NFC へと移行した。

<NFC>

陸が「現状で教師の数が減っており、政策後はさらに教師の数が減るからその結果として教育の質が下がるため政策をとるべきではない。」という主張をする。またここでは陸からロジックと、そのロジックを進めるための T/point の両方が提示され、ここからしばらくはその二つがどこでつながっているのかという、理解に時間が割かれることになる。主に雀部の質問により、ロジックの data は現状で教師が減っていること、T/point は政策後に教師の

数が減ってからのことについて述べており、T/point は data ではなく warrant にて使われることが理解される。その後、杉本が、そもそも AD がとれる可能性(いわゆる NFC の task)と陸のだしている T/point(この場合は warrant と同義)のリンケージは何かという質問をし、その質問から雀部が、そもそも陸は AD がとれる可能性を否定しているのか? という質問をする。これによりテーブル全体として、どのように陸の意見を扱うかではなく、どうやって陸に OP の task を否定できないと自分が言わせるかという風に意識が変わり、それをするための介入が増えていく。最終的には佐野が「政策後に教育の質が下がる可能性はもちろんあるが、上がる可能性もあるから A/L/1 possi to get AD は否定できない。」という介入をし、流しかけたところに、雀部がそれは最初の自分の質問と同義だという理由付けにより自分の最初の OP の task を否定できるのか? という質問に戻し、陸に否定できないと答えさせ、議論を収束させた。

かなりの時間を NFC エリアに費やしたが、その大半は似たような QC の乱発と被せ合いによるものであり、陸のアーギュメントの検証が行われていた時間はほとんどなかった。度々示されていた話せない理由も単に task だからというもののばかりで、最終的な収束方法もかなり強引なものであった。

<PLAN から AD>

Mandate にて主に雀部により、政策の細部のことや、改めて TG がどのような人なのかという質問がなされた。

Solution エリアはスムーズに検証が進み、AD を確認した。

<DA>

OP であった佐野を除く全員が立候補し、各々のアイデアの理解に努めている間に時間となり議論が終了した。

2.順位選定理由

文責：矢田部（法市4）

1位 雀部（武蔵3）

テーブル内で最も多く介入を行っていたこと（ほとんどは Q によるものであったが）、NFC において最終的にテーブルを押し進める S を打てていたことを評価した。4th テーブルで見せたパフォーマンスを考えると本来の実力は高いものがあると思うので、本テーブルでも焦ることなくその力を発揮してほしい。納得のいく内容ではなかったと思うが、

様々な重圧を押しつけてランクを勝ち取ったのは立派なことである。この結果を自信に、アッセンブリーでは更に上を目指してほしい。

2位 杉本（明治2）

実力を感じた。しかし、だからこそ本テーブルでも食欲に1位を狙ってほしかったという思いもある。杉本の実力を考えれば十分にチャンスはあったはずだ。今後のディス界を引っ張っていく1位に次ぐ介入量と、テーブルで最も有効な発言を行っていたことを評価した。浮き足立つ3年生を横目にマクロな視点から冷静なプレゼンテーションでの介入が行えていたところから確かな存在となるべき1人であると思うので、この結果に満足することなく努力を続けてほしい。

3位 佐野（立教3）

オピニオンプレゼンターとしての役割を果たし、ADを立証したことを評価した。上位2人とは僅差であり、勝負を分けたのはNFCでの陸のアーギュメントへの対応であった。被せ合いが起こってしまっている時、どのような介入をしていくかという部分に成長の余地があると思う。あと一歩のところまでランクを逃した悔しさを糧にアッセンブリーでの更なる飛躍に期待したい。

4位 小林（立教3）

上位3人に次ぐ量の介入を行っていた。所々で議論の全体に影響を与えうような発言が見られたが、それらが実際に有効となることはなかった。自身がテーブルの中心となる意識が足りなかったように感じる。小林の持つ視点の良さは十分武器となる要素で、それをアッセンブリーまでにどれだけ磨き上げられるかがランクへの鍵となるだろう。更なる飛躍に期待する。

5位 佐藤（フェリス3）

上位4人に次ぐ量の介入が行えていた。ヒートアップするテーブルをどうにか落ち着けようとする意識が見られたが、介入がQで終わってしまっていたためテーブルに影響を与えるには至らなかった。アッセンブリーまでに上位テーブルでも自身の発言をCやSに繋げ、議論を動かしていける実力を身につけられるよう、この悔しさをバネにブレパに励んでほしい。

6位 陸（立教3）

NFCにおいて反論を提示していたが、おそらく本人も望んでいないであろう形で収束させられてしまっていたためこの順位となった。勢い任せでニーズを汲めていないSばかりだったのだから、それらに負けずに自ら検証を進めていってほしかった。春セミ本番で見せた躍進を止めることなく、アッセンブリーでリベンジを果たしてほしい。

7位 平野（法市3）

介入量が最も少なかったためこの順位となった。被せ合いが頻発する中で相手に発言を譲るのは立派だが、それだけでは何の意味もない。このテーブルにおいて何ができたのかよく考え直してみしてほしい。おそらく留学で準備が十分ではなかった春セミと異なり、アッセンブリーまではまだ時間がある。万全の状態の本番を迎えられるよう頑張してほしい。

3.コメント

<橋本>

まず春セミお疲れさまでした！！！！

今回のテーブルはランクがかかっているテーブルにもかかわらず、序盤に関してはテーブルメンバー全員にコンパリをすることにより議論がしたいという印象を感じ素直に尊敬しました。だからこそ NFC での議論をととても残念に思いますが、そういうテーブルで勝つ意識を持ち続けて介入し続けられることは、またすごいことでありランクを取るために必要なものであると思うのでそれができた人はそんな自分を誇りつつも議論をするにはどうすればよかったかを考えてほしいです。逆にできなかった人は、もしランクを取りたいのであればアッセンまでにまずテーブルでそれを持ち続ける意識をすることが重要だと思います。アッセンまで残り3か月あるので頑張ってください！！応援しています！！

<矢田部>

お疲れさまでした！

今回のテーブルの内容はとても褒められたものではなかったと思います。特筆すべき内容はひとつもなく意味の薄い勢い任せの介入が乱立していたというのが素直な印象です。ランクがかかったテーブルであったので仕方ないと思いますが、こういった議論になってしまった結果、全員が力を発揮できないまま終わってしまったということは覚えておいてほしいです。僕は実力を出し切れないうま負けてしまうことが一番悔いが残るし、勿体ないことだと思います。3年生にとってアッセンが本気でディスカッションができる最後の機会です。結果を残すことも大切ですが、それと同じくらい後悔のないディスカッションをすることも大事にしてほしいです。本テーブルメンバーのアッセンでの活躍を期待しています。